

水を枯渇させるのは誰か

—— JR東海、自治体、メディアの責任を問う ——

●2024年4月上旬、岐阜県大湫町での大規模な水枯れが報道された。JR東海は、リニア工事による因果関係を認めている。

●この件については、いくつかの考察が必要になる。

①ほとんど初めての全国報道

リニア工事による水枯れは、1990年代から頻発している。

だがそのほとんどは、地方メディアだけが報じ、全国報道されることはほとんどなかった。なぜ今回は報道されたのか。

②自治体やメディアの責任はないのか。

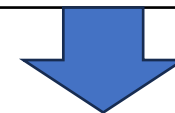
枯渇させたのはリニアのトンネル工事である以上、事業主体であるJR東海は責任を免れないが、自治体やメディアには枯渇前にすべきことがあったのではないのか。

水が枯れた①

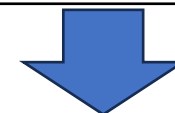
——山梨リニア実験線周辺の事例——



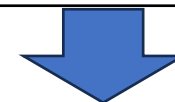
★実験線は1990年に着工され、97年に開通。おそらく最初に水が枯れたのは1994年。大月市朝日小沢地区。



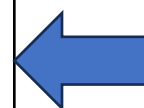
★JR東海は「減流するかも」と予測していたが、完全に枯れた。簡易水道の水源でもあったので、驚いた住民はJR東海に補償を求めた



★JR東海は、国交省の通知に従い、集落に▼井戸設置、▼揚水ポンプ設置、▼貯水タンク設置、そして揚水ポンプの「20年分」の電気代として1000万円を払った



★住民は「補償金が残っているうちに」と、新たな井戸を掘り、新しいポンプを買い、節水型貯水タンクを設置。補償期間の20年は過ぎたが月5000円程度の電気代で水を確保している。住民は今も「JR東海は冷たかった」と振り返る。



★だが井戸からポンプまで数百mもあり、ポンプは5年で不調に。1000万円はみるみる減っていく。住民はさらなる補償を求めたが、JR東海は応じなかった。

国交省の通知とは…

「公共事業に係る工事の施工に起因する水枯渇等により生ずる損害等に係る事務処理要領の制定について」

この通知に、水枯れ等を起こした場合の補償期間が定められている。「30を限度」とあるように、「最大」で30年。朝日小沢地区では20年だった。

①生活用水の場合

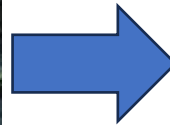
おおむね30を限度とするが、将来の水道等の整備計画が見込まれる地域にあつては、当該整備計画等を考慮した年数とする。ただし、用水使用者が借家人である場合は、おおむね5を限度とする。

②農業用水等の場合

おおむね15を限度とするが、農業等の継続可能性等を考慮して、おおむね30までを可能とする。ただし、市街化区域（生産緑地法（昭和49年法律第68号）第3条第1項の規定により定められた生産緑地地区を除く。以下同じ。）若し

水が枯れた②

——上野原市秋山「棚の入沢」——



棚の入沢。かつてはヤマメやイワナの釣りのメッカだった。（自治体広報紙の写真から）

リニア実験線の延伸工事が2008年から始まると、そのトンネル工事から約1 Km離れた棚の入沢が2011年に枯れた。水一滴流れなくなった。

水が枯れた②

——上野原市秋山「棚の入沢」——



JR東海は、水枯れと工事との因果関係を認め、「棚の入沢」を簡易水道の水源とする集落に対し、▼井戸設置、▼揚水ポンプ設置、▼貯水タンク設置（写真）、そして30年分の電気料金（不明）を払った。

住民は31日目からは自費で揚水に必要な電気代、ポンプやタンクの維持費を負担しなければならない。

予測されていた枯渇

- 山梨リニア実験線の建設（1990年から）に先立ち、JR東海が公表した「山梨リニア実験線環境影響調査報告書」によると、「棚の入沢」の枯渇は予測されていた。

㊦ 朝日曾雌から大ノ入川にかけてのトンネル

この区間の地質は御坂層群からなり、全体的には地質は良好である。しかし、付近に秋山川断層の影響が想定されるため、秋山川沿いは基盤が風化していることが考えられ、棚ノ入沢が影響を受けることが予測される。

同報告書には、工事前に「必要な対策を講ずる」と明記されたが、結局、沢は枯れた。建設を請け負った「鉄道建設・運輸施設整備支援機構」に「なぜ？」と尋ねると…

「水脈の存在を予測できませんでした」

だが、予測できたとしても、高速走行するリニアのトンネルはほぼ直線状に掘るしかないので、水脈をどうしても断ち切ってしまう。

水が枯れた③

——トンネル湧水——



2012年。山梨リニア実験線の延伸工事。トンネルの床が光っているのは、掘削したことで湧水が発生したから。



トンネルから標高の低い道路へと川のように水が流出していた。

水が枯れた④

——1級河川「天川」——



笛吹市ではリニアのトンネル工事で、農業用水でもある1級河川「天川」が枯れた。JR東海は、トンネル湧水をくみ上げ、それを天川に放流するという補償を実施した。



このトンネルの少し上流部に行けば、天川にはほとんど水が流れていなかった。

実験線周辺には、JR東海が明らかにしただけで30以上の、そして私が笛吹市役所に問い合わせただけでも数十の個人井戸が枯れたとの情報を得た。

水が減る

——長野県大鹿村——

●長野県大鹿村の青木川非常口（斜坑）周辺で、2022年6月と7月、2カ所の井戸で、水位が2～5 m低下した。

J R東海はトンネル掘削との因果関係を認めた。現地からの情報では、現時点では井戸水使用に支障はないようだが、要注視。

●未確認情報。村が所有する牧場の水源地が枯れた、村の奥地である釜沢地区の沢が3本枯れたとの情報がある。沢に行くにも、手前にJ R東海の敷地があるため、現場に行くのが難しい。

水が減る 長野県豊丘村

●（信濃毎日新聞より。24年5月23日）

豊丘村の伊那山地トンネル戸中(とちゅう)・壬生沢(みぶさわ)工区の斜坑周辺では**22年**、村や同社が複数の井戸が枯れたと確認した。現在も自宅の井戸が枯れたままという**70代**女性によると、自宅の池に水を引いていた近くの沢の水量も減少。現在は工事を担う共同企業体（JV）が別の場所からパイプで引いた水を入れている。ただ、「対策は工事の間だけと説明を受けている。工事が終わったらどうなるのか…」と漏らした。

J R 東海が予測した減水

その1 大井川

J R 東海の環境アセスの報告書「環境影響評価書」は殆どの調査項目が「影響は小さいと予測する」と結論されるが、少数ながら、その減水を予測した地域がある。

表 8-2-4-5 河川流量の予測結果

地点番号	地点	現況の流量 (解析) (m ³ /s)	工事期間中の流量 (m ³ /s)	完成後の流量 (m ³ /s)
01	西俣 (二軒小屋発電所 取水堰上流)	3.97	3.56	3.41
02	西俣	3.56	2.65	2.49
03	東俣 (二軒小屋発電所 取水堰上流)	4.12	4.12	4.12
04	東俣	3.26	3.25	3.24
05	大井川 (田代川第二発電 所取水堰上流)	12.1	10.2	9.98
06	大井川 (田代ダム下流)	9.03	7.29	7.14
07	大井川 (赤石発電所木賊 取水堰上流)	11.9	10.1	9.87

大井川の水を水源とする
8市2町62万人の水利権の
量に匹敵する。



毎秒2トン減る！

その2 長野県大鹿村小河内沢川

工事
前
流量

工事
後
流量

期	区	河川名 (取水堰上流)	係数	工事前				工事後		
				流量	係数	流量	係数	流量	係数	
渇水期	01	小渋川 (大鹿発電所 七釜取水堰上流)	0.6	2.97	0.11	0.70	0.81	0.86	0.85	0.84
	02	小河内沢川 (大鹿発電所 御所平取水堰上流)		1.53	0.06	0.29	0.35	0.58	0.15	0.08
	合計			4.50	0.17	0.99	1.16	1.44	1.00	0.92

渇水期においては、小河内沢川の流量は、毎秒0.58トンから0.08トンへと、**じつに86%も減ると予測**されている。

リニアが走る品川から名古屋までには数百もの数千もの沢や川があるはずだが、「評価書」のなかで、こうして**具体的な川の名前を明記して、大幅な減水の予測をしたのは、「大井川」と「小河内沢川」の2つだけだ**（おそらく）。ほかはすべて「x xからx xまでの地域では」と一括りの予測がされている。

水を守るぞ① 静岡県

2013年9月、JR東海が公表した「環境影響準備書」で大井川が毎秒2トン減水するとの予測に驚いた川勝平太知事は意見書を出す。主なポイントは

1. 失われるトンネル湧水の「全量戻し」
2. 県が整備する環境監視体制へのJR東海の参加

● JR東海がこれに合意。2014年4月、「静岡県中央新幹線環境保全連絡会議」が設立。以後、JR東海との話し合いが始まる。

● 同じ2014年4月、JR東海は「環境影響評価書」を公表。大井川の減流対策はこう書かれているだけだった——「トンネル内に湧出した水をポンプで汲み上げるなどして大井川に戻す」（本編8-2-4-13）

● 「連絡会議」がなかったら、とうの昔にJR東海は南アルプスを掘削していた。どんな結果になっただろうか。「連絡会議」設立から**丸10年経った**が、未だに、具体的な「水的全量戻し」「生態系の保全」「残土処分」が決まらないほどに、環境保全には長い時間がかかる。

水を守るぞ② 長野県南木曾町

★1999年。町は町内の2つの水源を「妻籠水道水源保全地区」として指定

★2014年6月。その水源地の真下をリニアが通ることで、**山梨実験線のような枯渴を怖れた**町は、町内関係者で構成する「**リニア中央新幹線対策協議会**」設置。以後、JR東海と話し合いを続ける。

★長野県の「**長野県水環境保全条例**」**第一二条**でも、水源保全地区で土地の形質の変更等をしようとする者は「**知事と協議し、同意を得なければならない**」と定めているので、2017年4月、JR東海は同条例に基づき、県知事に「妻籠水道水源保全地区内行為事前協議書」を提出。ここから、長野県は環境審議会で南木曾町の水源地問題の審議に入る。

★JR東海は「評価書」では水環境への影響は「小さいと予測する」と結論したが、向井町長（当時）が「予測には不確実性がある。徹底してこの問題を話し合う」と決意していた。

★2018年8月。その結果、県、町、JR東海、鉄道機構の4者が「5項目」の確認事項を交わす

★5項目の主軸は

▼残土置き場の確保なしにトンネル掘削しない。

そして！

▼問題が新たに発生した場合は、四者が協議して解決する

★同年12月には、町はJR東海と「中央新幹線建設工事に伴う水道水源予備的措置に関する協定書」を締結



▼減濁水を想定し、対策を確保することが約束され、JR東海は、減濁水に備えての水道施設の建設を行っている。

ただし！

水道施設は「水道水」の代替施設であり、農業用水を供給するオダル川の減濁水や、個人の井戸の枯渇についての議論が進んでいないのが課題。（地元市民団体）

水を守るぞ③ 長野県豊丘村福島地区住民

- 福島地区には沢がない。湧水や横井戸を利用して農業を営んできたが、リニアが通ることでの減濁水を怖れた住民が（「村が」ではなく）JR東海と交渉し、
- ★福島地区の地下を掘削する前に代替水源を整備すること。
との合意に達し、以下の対策が行われることになった。
- 沢や横井戸からの取水
- 貯水槽の設置
- 管路による配水

なぜ大湫町の減濁水は防げなかったのか

★2014年「環境影響評価書」（岐阜県）には本編8-2-3-25から「地下水の水位」の予測が描かれ、結論は8-2-3-34で「**一部の地下水の水位への影響を及ぼす可能性がある**ものと予測する」と書かれている。

★23年6月の「環境保全の計画」では、地下水の水位低下には、事前に▼先進ボーリング、▼薬液注入、▼覆工コンクリート、▼防水シートの設置で影響を低減すると明記している。

★だが、24年5月29日に岐阜県庁での「県環境影響評価審査会」で大湫町について委員とJR東海との協議が終わったあとの、JR東海への取材で『薬液注入はしていなかった』ことがわかった。

また、2013年に岐阜県知事も「個別井戸の減濁水の判断をせよ」との知事意見を出しているが、JR東海が実際に個別調査したのは、大湫町なら36ある井戸のわずかに6つだけ。

★そうであれば、JR東海から毎月報告をもらっていた県は、なぜ個別の井戸を調査しないのかとの問いかけもできたはずだ。そもそも評価書で「影響を及ぼす」と書いている以上、それについての話し合いもすべきなのにしなかった。

★枯れてから騒ぐのは遅い。JR東海だけではなく、自治体の責任も問われている。このあたりで、やはり静岡県や南木曾町の取組は評価されていいはずだ。じつは、「何もしない」自治体こそが殆どだ…。